

会 議 記 録			
会議の名称	総務文教常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 数井
日 時	令和4年4月27日（水曜日）	開 議 閉 議	午前10時00分 午後 0時10分
出席委員	◎浅田 ○松山 三上 山本 木村 齊藤 石野		
執行機関 出席者	垣見市長公室長、小林広報プロモーション課長、平井広報プロモーション課副課長、眞里谷広報プロモーション課シティブロモーション係長、岸秘書課長、浦政策企画部長、高木企画調整課長、松野情報政策課長、佐藤情報政策課デジタル推進係長、小栗会計管理室長、野々村財産管理課長、谷口財産管理課副課長、山内会計課長、片山教育部長、久保教育部次長、内藤学校教育課長、樋口社会教育課長、岩崎歴史文化財課長、谷口みらい教育リサーチセンター所長		
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	可	市民 0名 報道関係者 0名	議員 0名（ ）

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

【事務局日程説明】

2 案件

(1) 行政報告

【市長公室】

○亀岡市と朝日放送グループホールディングス株式会社との包括連携協定の締結について

(市長公室 入室)

10:01

市長公室長 あいさつ

『亀岡市と朝日放送グループホールディングス株式会社との包括連携協定の締結について』

広報プロモーション課長 説明

《質疑》

なし

(市長公室 退室)

【政策企画部】

○第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画の総括について

○ICT技術を活用した行政手続きのデジタル化・オンライン化推進事業について

(政策企画部 入室)

10:10

政策企画部長 あいさつ

『第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画の総括について』

企画調整課長 説明

《質疑》

<木村委員>

資料1の59から60ページに達成状況の評価が出ており、例えばがん検診や特定健診の受診率が悪いが今後どうするか考えているのか。

<企画調整課長>

がん検診の受診率は、国の目標数値が50%であるが、市で把握できる情報が限られており、市で算出できる受診率ではこの数値となった。指標の設定に問題があったこともあり、今後は指標の設定を改善していきたい。

<木村委員>

がん検診などは、個人で受診された場合、市では分からないため、また指標の設定がおかしいということであるが、なぜこの評価となったのか分かるような資料のつくり方が望ましい。

<企画調整課長>

がん検診の実績について、なぜこの数値になったのか、欄外に補足説明を入れている。

<松山副委員長>

資料1の28ページで、今後の取組の方向性などが記載されており、例えば、西京区と亀岡市の住民交流事業で、参加者が減少傾向にあるため、両区市の住民が関心を持ちやすい行事を考える必要があるとなっているが、そもそも実施をするのかどうかを含めた検証が必要であり、そういった面で企画調整課から何か提案をすることがあるのか。

<企画調整課長>

総合計画の進行管理については、基本的に総合計画審議会の進行管理部会でヒアリングや行政評価をしており、事業の重要性や指標の妥当性について意見をいただいている。市民から意見を聞く機会もあるので、そういった声を参考に事業の組立てを考えていく仕組みにしており、一方的に企画調整課から事業の見直しや中止を言う仕組みにはなっていない。

<松山副委員長>

市民の声を聞くという意味で審議会は必要であるが、なかなか意見を言えない方もおられ、また細かい事業の把握ができないこともあるので、企画調整課として踏み込んだ形で提案できたらよいと考えるが、所見は。

<企画調整課長>

今後、第5次亀岡市総合計画の進行管理を予定しており、これから所管で進行管理調書を作成していくことになるが、事業開始当初から最後をイメージして進めていくも

のであり、活動指標と成果指標が適切か考えるときに、必然的に事業効果がどうなのかという思考が必要になってくる。その思考を職員の中に浸透させていくことで効果的な事業を実施していきたい。

(質疑終了)

『ICT技術を活用した行政手続きのデジタル化・オンライン化推進事業について』

情報政策課長 説明

《質疑》

<山本委員>

資料の④で、タブレット端末を窓口で活用する場合、例えば住民票を取得したいとき、今は申請書を窓口で提出して取得されているが、今後はタブレットに入力するので、書かない窓口というイメージでよいか。

<情報政策課長>

そういった利用も想定してのタブレット端末の導入を図りたい。

(質疑終了)

(政策企画部 退室)

【会計管理室】

○市有地の利活用について

(会計管理室 入室)

10:45

会計管理室長 あいさつ

『市有地の利活用について』

財産管理課長 説明

《質疑》

<齊藤委員>

北古世町の三角地について、面積的に土地の利用が小さくなっているようであるが、もう少し一杯まで立ち上げることはできないか。

<財産管理課長>

資料の写真の中でバリケードが置いてあるところから、2メートルの地点に境界杭がある。その法尻からと、写真手前の農業用水路際からとの2辺に擁壁を立ち上げることは可能である。ただし、費用も莫大になることから、亀岡市で工事をすることはできず、最低売却価格に反映し減額している状況である。

<石野委員>

三角地について、市道北古世西川線との接道はどうか。

<財産管理課長>

市道北古世西川線からでは三角地の斜辺になるので、広く接道できる。なお、奥行の活用をするには、さきほど齊藤委員からあったように、擁壁等で立ち上げるか、地下へ掘り下げる手法を取ることもできる。

<浅田委員長>

他にないか。

<財産管理課長>

別件であるが、昨年度に総務省の指導により、公共施設総合管理計画の一部改訂を行ったが、市民へは情報コーナーやホームページで情報提供したい。

(質疑終了)

(会計管理室 退室)

【教育部】

○学校規模適正化の取組について

○令和3年度ふるさと体験学習事業“京都亀岡 保津川下り”実績報告について

○「亀岡市デジタル文化資料館（仮称）」構築事業について

(教育部 入室)

10:55

教育部長 あいさつ

『学校規模適正化の取組について』

学校教育課長 説明

≪質疑≫

<木村委員>

別院中学校の件で、制服はどうするのか。

<教育部長>

市立の中学校については制服のデザインは共通である。胸ポケットのワッペンが学校ごとに異なっており、学校を移っていただく生徒には新しいものを渡せるようにする。

<木村委員>

体操服も同じか。

<教育部次長>

これまで別院中学校で使っていたものを南桑中学校で使っていただいてもよいし、希望があれば南桑中学校の体操服も準備させていただく。

<齊藤委員>

育親中学校の件は、地域の方も望んでおられるようなので粛々と進めていただきたい。

<木村委員>

本梅小学校敷地に育親中学校の仮校舎を建てた後、令和8年までに育親中学校を建て替えるということでのよいのか。

<教育部長>

今の育親中学校は、職員室がある一階建ての管理棟と、二階建ての教室棟があり、さらに体育館が昭和56年に建設されている。その後の生徒数の増加に合わせ、数回増築工事をしている。合計4棟に分かれた構造であり、改修するか新設するかはこれから検討していく。ただ、工事をしながらの勉強は難しいため、本梅小学校で仮校舎を建設しようと考えている。

<木村委員>

スクールバスはどのように考えているか。

<教育部長>

令和6年に仮開設を考えており、通学の方法としてもスクールバスを検討していくことになるが、保護者の意見も聞きながら対応していきたい。

<松山副委員長>

教育委員会の案に大賛成である。ただ、教室に設置されているモニターが小さくて後ろの席では見えないと聞く。そのようなことのないよう、大きいモニターがあって黒板がふたのようになって収納できるなど、本校舎であろうと仮校舎であろうとスペックを上げていただきたい。

<教育部長>

仮校舎であっても教育環境が以前に比べて劣ることがないようにしていきたい。教室にはモニターを設置してICT機器で作成した文章が見られるように既に対応しており、新校舎建設の際にも新しい時代にふさわしい適切な環境で学べるように考えていきたい。

<松山委員>

各学校によってモニターのサイズが違うなどがあるようなので、そういうことのないようお願いしたい。

(質疑終了)

『令和3年度ふるさと体験学習事業“京都亀岡 保津川下り”実績報告について』

社会教育課長 説明

《質疑》

なし

『「亀岡市デジタル文化資料館（仮称）」構築事業について』

歴史文化財課長 説明

《質疑》

<齊藤委員>

デジタル田園都市構想ということで、仮想空間をつくることになると思うが、プログラマーは市の職員にいいのか。

<歴史文化財課長>

メタバースというのが世の中に出始めたばかりであり、やはり外部委託をしてしっかりしたものをつくっていききたいという思いがあり、今情報収集している段階である。

<三上委員>

デジタル田園都市国家構想推進交付金をもらおうとすればこういう組み立てになるのかと思うが、SDGsや、かめおか霧の芸術祭、移住ガイドのサブコンテンツは市長公室の管轄になるが、その辺の整理はしているのか。

<歴史文化財課長>

スタートは文化財を守ろうという思いであり、市全体で取り組むべきという考えもあるが、今年度は文化資料館が中心となって取り組み、今後サブコンテンツが入ってくる場合、亀岡市全体として取り組んでいくことになると思う。

<三上委員>

それでは、仮称デジタル文化資料館となっているが、文化資料館の分野がサブコンテンツとなって名称は変わっていくこともあるのか。

<歴史文化財課長>

国にはこの名称で申請している。メインコンテンツは文化財保護で申請しているので、今年度は文化財の保護活動をメインでメタバースの立ち上げをしていく。今後継続していく上で、文化資料館がサブコンテンツになるかもしれないが、メインかサブにこだわることではない。

<三上委員>

国の方で申請が通ったため、メインコンテンツとして今年度は文化資料館に集中して担当してもらわないといけないが、現存する文化財の保存や整理もある中で、デジタル化の業務をしていくとなると大変な業務量となる。かなりのオーバーワークになると思うので、無理をせず進めていただき、その後、亀岡市全体で考えていくという形にされたらよいと思う。

<松山委員>

これからはメタバースを取り入れる流れになっていくと思うが、いろいろなことを発展させていくと本来の目的は何だったのかということになりかねない。新文化資料館構想との関わりはどうなっているか。

<歴史文化財課長>

新文化資料館構想は平成28年度に策定し、現在は、再度文化施設のあり方懇話会の中で文化ホールと合わせてどのように維持していくのか検討されており、新文化資料館構想策定時はデジタルの考え方は全くなく、コロナの流行でデジタルへのシフトが早くなったが、今回の業務では新文化資料館構想を加味した上で齟齬のないようにしていきたい。

<松山委員>

開設の事業費に2億円かかるということで、さらに運営コストがかかってくる。その点で、最初から公募型プロポーザルがよいのか、もっとよい手法はないのか。

<教育部長>

今後、取組を進めていく上でどのような手法が最適か考えていかなければならない。現時点では、市としては公募型プロポーザルになると思う。ただ、より効果の高い方法について、国からの補助金の制約などを精査する中で、いろいろな情報を収集して取り組んでいきたい。

(質疑終了)

(教育部 退室)

11:45

(2) 他都市先進地行政視察について

<浅田委員長>

他都市先進地行政視察等に関して事務局から説明させる。

<事務局次長>

令和4年度は昨年度に引き続き「防災・教育のSDGsによる深掘り」を月例開催のテーマとすることで3月の総務文教常任委員会で決定している。本日は、各委員に他都市先進地視察について、日程、行先、視察テーマを議論いただく。なお、他都市先進地視察とは別件であるが、SDGs創生課から、「離れ」にのうみの現地視察及び指定管理者である「株式会社ちりおりアライアンス」との懇談会を実施していただいてはどうかとの提案がなされたので、受けるかどうかお諮りいただきたい。

<浅田委員長>

ただいまの提案について、意見はあるか。

<齊藤委員>

受ける必要はないと思う。

<三上委員>

今後に向けて意見交換する意味がないように思う。

<山本委員>

同じく受けなくてもよいと思う。

<浅田委員長>

それでは、「株式会社ちりおりアライアンス」との懇談会は受けないとのことによいか。

— 全員了 —

<浅田委員長>

次に他都市先進地視察について意見はあるか。

<石野委員>

改めて学校給食の取組について視察をしてはどうか。

<齊藤委員>

移住・定住で成功している事例の視察をしたい。

<松山副委員長>

杉並区の和田中学校の取組がよい。学校給食であれば、親子方式で調理をされている西東京市もよいと思う。

<木村委員>

人口増で成功している事例がよい。

<齊藤委員>

北海道の東川町は移住・定住と人口増で先進的な取組をされている。関東であれば、千葉県で人口の増えている自治体がある。

<山本委員>

つくば市のG I G Aスクール構想におけるシームレス教育はどうか。

<浅田委員長>

では関東方面で、7月25日の週に2泊3日で行くこととする。行先等については今意見のあった視察候補地に受入状況を確認し、次回委員会で検討する。

3 その他

(1) 次回の日程について

・5月26日(木)午前10時から

散会 ~12:10